

令和6年度 第2回刈谷市在宅医療・介護連携推進協議会 議事録

日 時：令和7年1月15日(水) 13:30～14:15

場 所 市役所101会議室

出席者

○	医師会【会長】 加藤 聡之	○	医師会 松本 和幸	×	歯科医師会 宮田 泰
○	薬剤師会 野村 圭吾	○	刈谷豊田総合病院 加藤 千景	○	社会福祉協議会 福ヶ迫 幸江
○	訪看連絡協議会 吉里 朋子	○	療法士連絡会 山口 裕一	○	ケアマネ連絡会 田中 朋見
○	県歯科衛生士会 太田 由紀子	○	衣浦東部保健所 辻 真弓	○	包括支援センター 大内 美穂子

1 開会

(会長) 次第に沿って進行したいと思います。よろしくお願いします。

2 議題

(1) えんじョネット刈谷の活用について

(事務局より説明) 資料P2、3参照

刈谷市行方不明高齢者SOSネットワークの登録情報の共有について

(会長) 地域包括支援センターは実際に行方不明高齢者を検索する等事例があったか？

(事務局) 地域包括支援センターや市民にも情報提供は行っているが、情報をもとに検索してもらうというよりは、気にしていただくためのもの。実際に地域包括支援センターの方が見つけたという事例はないが、市民にも公式LINEを通じて情報提供を行ったところ、その方に関する情報が市に入ることがある。

(会長) 担当している方が行方不明になってしまった等はとても重要な情報であるが、皆で一緒に探索しましょうといった運用ではないということですね。

議題1について承認

3 報告

(1) ACPの取組について

(事務局より説明) 資料P4、別添1参照

(会長) 配布をするのか？気持ちが変わったら書き直しして良いか？

(事務局) 配布先は今後検討する予定ではあるが、在宅のクリニックや看取りに関わる医療機関には優先的に配布を考えている。また、市役所にも設置予定。

(2) 各団体の取組について

長寿課 資料P5参照

① 刈谷豊田総合病院と介護支援専門員との連携会議

- ・介護報酬、診療報酬の改定に伴い、連携マニュアルの修正
- ・入退院時情報連携シートにACP記載項目追加

- ・連携マニュアルは令和7年4月付けで改訂する
- ② えんjoyネット刈谷の普及促進に関する説明会を実施
- ・グループホームの担当者向けに説明会実施
 - ・市内9事業所のうち、8事業所の計11名が参加
 - ・えんjoyネット刈谷について、説明会や登録支援は実施していく予定
- ③ 終活情報キットの配布
- ・医療やケアに関する情報ではないが、終活支援として実施

(会長) えんjoyネットの登録している事業所数や割合は把握しているか？

(事務局) 事業所数や登録者数は把握している。

(会長) なかなか取り組みにくいといった事業所が少なからずある。色々な理由があるが、改善され参加する事業所が増えると良い。説明会は大事だが、取り組めない事業所に対しての働きかけについてもあると良い。訪問看護やケアマネは積極的に利用できるが、ヘルパーは利用が少なかった印象。配食、介護タクシー、訪問入浴などマイナーな事業者向けにも何か策を検討してもらえると良い。訪問入浴の方たちはかなりリスクな仕事で、非常に状態の悪い人たちと関わっており、朝一に心停止しているなどあったりする。色々な職種との情報共有が望ましいと思う。情報が必要な人たちに利用してもらえる働きかけがあるとよい。

療法士連絡会

- ・6月総会実施。今後の方針を共有。27施設297名が療法士会に加入。
- ・10月福祉健康フェスティバル参加。240名が体験。握力測定や嚥下機能の評価等を実施。
- ・地域リハ活動支援事業 令和5年度6件→令和6年度18件
- 生活機能向上訪問事業 令和5年度22件→令和6年度7件

ケアマネ連絡会

- ・月1回 役員会を開催。
- ・年2回 主任介護支援専門員更新研修要件を満たす3時間の研修会を9月、2月に開催。
- ・9月はBCPについて知立市のおんじいのへや知立の堀山理学療法士、2月はACPについて刈谷市の訪問看護いるかの田中看護師にご登壇いただく予定。
また、同時開催で他事業所勉強会を行い、居宅の特定事業所加算算定の事業所が中心となってグループワークで事例検討会を開催している。
- ・刈谷ケアマネ連絡会でえんjoyネットでプロジェクトを立ち上げ、役員会の報告や研修会の案内等を掲載。現在全体の80%の登録者がいるものの閲覧者数はそのうちの半数くらいのため今後も有益な情報を載せていきたいと思っている。
- ・刈谷豊田総合病院と介護支援専門員との連携会議へ出席。今年度は連携マニュアルの中にある入退院情報連携シートの再作成を行った。
- ・その他、市の懇話会等会議に参加。

愛知県歯科衛生士会

- ・ 9～11月 地域包括ケア対応歯科衛生士養成事業研修会実施。

研修の目的は、県下の地域包括ケアに関連した自立支援や要介護高齢者への支援を主体的に実践できる歯科衛生士の指導者になれる歯科衛生士を養成すること。

刈谷からは数人参加している。研修を受けた上で、多職種連携会議に出ている。基礎研修では、行政の保健師を招き、地域での現状と課題、地域資源や高齢者福祉の実状を勉強。実践研修として、県内の個別会議で取り上げられた事例を用いてグループワークを実施。

- ・ 色々な団体の研修にも参加。地域リハビリテーション専門職介護予防指導者育成事業地域研修会を2月に実施予定。地域の介護予防の取り組み、地域の高齢者サロン、行政での介護予防教室に従事できるような衛生士を育成している。
- ・ お口の中のことで話をしてほしいなどあれば歯科衛生士を派遣するため、何かあればぜひお声がけをいただきたい。

愛知県衣浦東部保健所

- ・ 市の支援を行っている。今年度は刈谷市、安城市、知立市の会議に参加。
- ・ 西三河地域在宅医療介護連携会議に参加。
- ・ 令和3年度から、介護保険を利用する患者支援の病院窓口を知りたいという要望があり、情報を集約している。毎年、早い時期に更新し、関係機関に提供している。
- ・ 県方針として、在宅医療介護連携推進事業について保健所が主体的にすることは今年度で廃止と聞いている。衣東としては、市から依頼があれば引き続き会議には参加し、他市の状況等共有させていただければと思っている。
- ・ 個別支援（難病、精神等）で関わっているケースは、保健所単独で関わっているケースはないが、関係機関と連携しながら対応している。
- ・ えんじョネットでの研修等の情報は、保健所内で情報共有を行っている。個別支援ではえんじョネットを活用できていないため、今後活用できると良い。

基幹型地域包括支援センター

- ・ 自立支援型地域ケア会議に参加。医療職をはじめ、多職種の出席があり、医療職の意見は福祉職側から勉強になるという声もある。会議内でつながった参加者同士が勉強会や講義を行っている。薬剤師と社協がつながり、高齢者向けに薬剤師が講義してくださった報告もある。自立支援型地域ケア会議開催によるネットワーク構築につながっている。
- ・ 各包括主催の地域ケア会議に参加。自治会単位の地区課題を検討することや、困難ケースの課題解決を目的として実施。地区役員や地区住民、訪問看護、ヘルパー、ケアマネの事業所など、多職種連携の場になっている。
- ・ 保健師、看護師部会を偶数月に開催。今年度は部会の在り方について再確認を行った。知識を深めて学びの場とするため、介護予防と医療と介護の連携に重点をおき、介護予防事業の計画を行ったり、勉強会等を行ったりしている。医療職の視点から、在宅生活についての知識を増やすことで包括業務の一助となるよう取り組んでいる。

- ・各包括支援センターとの後方支援や連絡調整を行っている。虐待、困難事例のケース対応も行う。虐待困難ケースは、高齢者だけの課題におさまらず、家庭内の困窮、引きこもり、DV、障害者支援といった課題が複雑化・複合化している印象。課題解決には、多職種による連携が必須となってくるため、より連携が取れる体制構築を目指したい。

刈谷・知立・高浜訪問看護ステーション連絡協議会

- ・BCPについて昨年度から引き続き取り組んでいる。事業所がどのように連絡するかについて検討した。LINEのオープンチャットを活用して各事業所の責任者がつながっている。災害時まずは、お互いに連絡を取り合うということからになると思うが、情報交換から段階を踏んでお互い助け合っていくようになるとうい。具体的な方法は検討中。公開情報については、各事業所の被災状況、稼働機能の状況、職員の稼働率、不足物品、地域にある病院の稼働状況、交通状況、河川状況等。
- ・地区が縦に長い（高浜、知立、刈谷）ため、3か所に分けてグループLINEを作っている。
- ・えんjoyネットの活用状況が、事業所によって差がある。活用しているところは、利用者全員に活用するという承諾書を渡している。活用できていない事業所については、必要などところと連絡がとれない場合もあるため。
- ・広報活動については、各事業所で行っている。令和6年度は福祉健康フェスティバルに参加。訪問看護の認知度をあげるため各事業所がポスターやパンフレットを使って広報活動を行っている。地域との連携強化を図るため、地域住民に対する勉強会や相談会を実施している事業所もある。
- ・会議自体は5月・7月・12月に開催し、1月も開催予定。

刈谷市社会福祉協議会訪問介護事業所

- ・訪問介護用のスマートフォンを新しい機種に変更して活用している。
- ・ヘルパーの人材不足。求人をしていても応募がない状況だった。今年度は社協を定年退職したヘルパーの資格を持った人や、近隣の訪問介護事業所が閉鎖してしまったという人など計4名が入った。募集は随時続けていく。
- ・障害の事業で、事業所が閉鎖したことで移動支援の利用者依頼や、総合事業の方の依頼が多くある。

刈谷豊田総合病院 別添2参照

- ・診療報酬の改訂に伴い、より急性期病院としての機能分化。入院期間の短縮化や重症者をみる役割を求められることになり、今まで以上に早期退院・早期転院が求められている。早く地域に戻すよう国の動きが加速されているため、病院内でも改革を進めているところ。
- ・地域医療支援病院としては情報発信や研修会を開催し、地域全体で質の向上を図っていこうと取り組んでいる。特に、KRC（刈谷連携キャンパス）は、今までは医師向けの症例検討会だったが、今年度は年17回に増やし、医師以外の職種向けの内容で開催している。

- ・連携の実際については、ケアマネからの担当医連絡票が３３１件。
- ・退院時共同指導、介護支援等連携指導はそれぞれ月１０件程実施。
- ・在宅医療・介護連携支援センターについて、相談件数は昨年度よりは伸びている。相談者属性として、福祉関係（包括支援センター）は今年度少ないため、１０月から広報活動を開始した。相談内容は、在宅支援者の紹介が多い。訪問診療・訪問薬剤・訪問リハ等を尋ねられる方が多い。

薬剤師会

- ・薬剤師向けには、毎月の例会での勉強会を実施、県薬からの情報提供を共有。
- ・市民向けには、健康フェスティバルでの情報提供、在宅介護などの情報普及。

刈谷医師会

- ・３市（知立・高浜・刈谷）で月１回委員会開催。
- ・医療資源の把握については、後方支援ベッド提供病院、在宅診療所の把握や更新を年に１回行っている。
- ・交流会を３月に実施予定。内容は、多職種による事例検討会。研修会は９月と１１月に意思決定支援、排泄ケアの研修会をそれぞれ実施した。
- ・市民向けの啓蒙活動としては、市民講座参加者に啓発用ボールペン配布。「みんなで支える在宅医療」のロゴを記載してある。

（委員）訪問看護のＬＩＮＥオープンチャットについて、各事業所が抱えている利用者について、その事業所で対応が難しいときに、他の事業所に委託しながら利用できるような連携を検討されているのか。

→そこまでいきたいと思うが、情報共有は個人情報があるので検討中。

（会長）各団体の取り組みも、これからどんどん発展して、個々の事業所の取り組みのみならず、ネットワーク化して、みんなで一緒にやっていけるようになると良い。

４ その他

- ・第１回で提案した見守り安心機器とえん joy ネットの連携については、予算関係により他事業との兼ね合いから来年度からの実施は見送りとする。
- ・次回の協議会の予定

日 時：令和７年５月１４日（水）または５月２１日（水） 午後１時３０分～

場 所：刈谷市役所１階 １０１会議室